

意見交換会概要

日時	平成25年 6月 14日（金） 19 : 30 ~ 21 : 00
場所	青谷地区公民館（青谷地区座談会）
参加者数	約25人
出席者	校区審議室（神谷、小谷、清水）、小林支所長、土橋副支所長ほか

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	青谷から中学校が無くなることについては反対。学校を考えるにあたり、通学の安全面は重要なことだが、肝心の通学方法がバスなのかJRなのかははっきりしない。青谷駅から遠い山側、海側に住む子で、クラブ活動が終わって帰ってきた時、家まで帰れるバスがあるのか。親が迎えに行くことになるのか。毎日の生活のことなのに、はっきり明示していない。そのことを不安に思う。学校規模に関することを説明していたが、標準という考え方は時代とともに変わってくる。今の基準で統合に持っていこうとしているが、それが正しいとは認めない。少子化が進んでいる今、この標準規模の考え方も変わってくると思う。過疎化も中学校が無くなれば拍車がかかることは目に見えているので、まちの活性化について不安。統合は反対。
参加者 B	先に通学の面がはっきりしないと、統合についても考えることはできないではないか。
参加者 A	親としては子供の安全面が非常に気がかりなこと、皆さん不安に思っている。
参加者 B	統合となると通学時間など負担は子供にくる。そこを考えたら学校は地元にあるべき。統合案のとおりなら桑原の子は浜村に行くことになる。いくら考えても通学時間は倍となる。その点を考えてほしい。子供たちに負担がかかることになる。
参加者 C	学校を残してほしいなら残してほしいと意見を言ってください。意見を言わないと通らない。今朝、校区審議委員に聞いてきたが、校区審議会というのは教育委員会が案をまとめて「これ、どうですか」というものを審議する機関。校区審議会は1月と3月に開かれた時、どういうことが話題に上がったかと聞いたら、「中川教育長の時から建替えなければいけないという認識のまま来ており、あくまでも選択肢の中にあるだけで、地元の意見をもとに審議する。審議委員はその情報を聞いて判断するだけ。」と話していた。
参加者 D	少人数の学校でも出来ることはある。卓球がすごく強かったのは、少人数だったからこそ。デメリットと切り捨てるのではなく強みとして考えていただきたい。多人数だとクラス替えとか教育面でもいい効果があるのは分かるが、小さくても出来ることはある。青谷で子供を育てるという方針を掲げて取り組み、それが小中一貫校でもいい、学校を残すという方向で考えていただきたい。まず学校を残すという方針で、地域を活性化していくサポートをしていただきたい。地域で子供を育て送り出し、やがて地域に子供が帰ってきて子育てをするというまちづくりが出来たらいい。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 C	<p>標準的な学校規模は6学級～18学級とは校区審議会で決められたものであろうが、鳥取の北中は4階建てを建てると景観審で説明を受けたが、北中は適切な規模ではないということになる。これは、今説明している6学級規模には合わない。大規模校はほっといて、小規模だけを論点にする。気高中、青谷中といった過疎化が進んでいる地域に対して、弱い者イジメしている。2校を建てるのはお金がないから、統合中学校1校にした方が効率がいい。今耐震を言い出したのも、27年までに耐震化を終えなければいけないということが根底にある。庁舎問題でもそうだが、議論もないまま見切り発車するから問題になる。結論を急ぎすぎ。子供たちの負担、親の負担を少なくしてほしい。負担が大きくなると親は便利な所に住もうとする。過疎を增長するような施策はやめていただきたい。</p>
参加者 E	<p>人数が多くなるといいということばかりが書いてあるが、人数が少なくてもいいことはある。人数が増えれば人間関係に行き詰るリスクもある。今の小学校の規模位がいい。人数が少なくてもリセットすることはできるし、交友関係も増えていく。小規模は悪いことばかりではない。</p>
参加者 A	<p>少人数の方が充分メリットが大きい。多人数のメリットばかり強調されている。社会問題となっているイジメだが、やはり先生一人が40人見ると20人見るとでは人間関係の密度が違ってくる。その子の困っている信号を見逃してしまう。先生がしっかり責任をもって子供を見ることが出来る規模がいいと思う。</p>
参加者 F	<p>長和瀬に住んでいるが、路線バスが減り、送り迎えが大変。課外水泳とか陸上とかは親が迎えに行くことが決まっている。これが浜村になるとすれば、親に今以上の負担となる。</p>
参加者 G	<p>千葉から来たが、当初は子供の数が少なくて大丈夫かなと思った。子供は子供の中にもまれて育つと考えていたから。でも今は、地域の人に育ててもらっていると思っている。ここに来て本当にそう思った。地域の人から子供に声をかけてもらったり、子供の情報を教えてもらったり。これが浜村に行くと、こういったやり取りが失われてしまう。都会では電車通学している子供は多いが、通学に時間がとられ余裕がないというのが本当のところ。勉強は出来るけれども、通学に追われて時間に余裕がない。人にお礼が言えたり人に尊敬の念を抱くといったことが欠如してきている。青谷にあることで人に対して温かさをもって接することが出来ている。友達のおじいちゃん、おばあちゃんに対して尊敬の念を持っているのは、交流する時間的余裕があるから、時間的余裕があったからこそ、温かさが身に付いたとも言える。子供から時間を奪わないでほしい。子供の中で得るものもあるが、「ジゲ」の中で自然と人の中で生きたことがプラスになると思う。</p>
参加者 D	<p>6/27に校区審議会が開催されるというが、適正な人数は50人から40人、35人となってきた。少子化が進む中、適正とされる人数も変化する。少人数であっても学校を残すから、青谷として、どういった学校を作りましょうかという提案に来てほしい。こういう教育のあり方があると、提案していく教育委員会であってほしい。</p>
参加者 A	<p>学校の今後の地域のあり方について提案だが、校舎が整備された暁には図書館の整備も合わせてしていただきたいと思う。青谷支所に小さな図書館はあるが、整備するのであれば地域住民にも開放していただき午後8時くらいまで開館して、仕事終わりでも寄れるような施設、図書館開放をしていただきたい。学校は子供だけでなく大人も学べる施設という形の学校のあり方を提案したい。</p>